

第3回平成筑豊鉄道沿線地域公共交通協議会 議事概要

日 時：令和7年5月26日（月）15：00～16：00

場 所：福岡県中小企業振興センター 202会議室

出席者：福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長

直方市 和泉都市計画課長

田川市 大森都市計画課長

行橋市 土肥都市政策課長

小竹町 古賀企画調整課長

香春町 國安まちづくり課長

糸田町 藤村地域振興課長

赤村 佐々木総務課長補佐兼係長（代理）

福智町 木村企画振興課長

みやこ町 吉武行政経営課長

九州運輸局交通政策部 井上専門官（代理）

九州運輸局鉄道部 井料計画課長

九州運輸局福岡運輸支局 辻首席運輸企画専門官

警察本部交通部 篠原交通規制課課長補佐（代理）

平成筑豊鉄道（株） 河合代表取締役社長

西日本鉄道（株）自動車事業本部計画部 井上計画担当課長

JR九州バス（株）常務取締役 吉住企画運輸部長

太陽交通（株）交通事業部 野田旅客課長

筑豊地区タクシー協会 四元専務

北九州市立大学副学長 内田教授

九州産業大学理工学部情報科学科 稲永教授

福岡県企画・地域振興部 市町村振興局 福田地域政策監（代理）

福岡県保健医療介護部 白垣医療指導課長

福岡県商工部観光局 柳原観光政策課長

福岡県教育庁教育振興部 古島高校教育課長

福岡県教育庁教育振興部 黒岩特別支援教育課長補佐（代理）

福岡県企画・地域振興部交通政策課 秋田企画監

1 開 会

- ・事務局から委員27名中27名出席し、出席者が過半数を超えているため、協議会が成立していることを報告。

（平成筑豊鉄道沿線地域公共交通協議会設置要綱第6条第2項）

2 議事（1）本協議会における調査事項について ※決議事項

ODMV（Dual Mode Vehicle）について説明

（九州運輸局鉄道部 井料計画課長）

- ・前回の協議会で、大森委員からDMVを平成筑豊鉄道に導入する場合の法的、実務的な面で制約がないかというご質問について、回答させていただく。
- ・阿佐海岸鉄道におけるDMV導入の背景及び目的は、DMV車両自体が観光資源、加えて、陸路と鉄道の双方を走行するため、地域の活性化に寄与することが期待されるということで、事業者、関係自治体で運行に向けた取り組みを進められていたところ。
- ・また、DMVの導入については、国内で初めてDMV導入を検討、そして本格営業運行となることから、DMVに関する技術評価委員会の評価を受けながら技術開発を進められて導入されたというもの。
- ・基本的にDMVは、29人乗りのマイクロバスを改造されており、従来の鉄道車両と比べて非常に軽量で、一般鉄道車両で使用されている信号設備をDMVで使用する事が技術的に困難であるため、新しくDMVの運転保安システムを開発し、導入している。
- ・阿佐海岸鉄道に導入されたDMVの前提条件として、DMV専用線区として進められており、一般鉄道車両との共用という前提にはなっていない。
- ・法律上、一般鉄道車両とDMVを同じ路線で走らせることができないということはないが、DMVを導入するとなれば、安全面から平成筑豊鉄道に合わせた技術開発が必要になると思われる。
- ・特に阿佐海岸鉄道については、DMV車両のみを走らせる条件で開発されているため、一般車両とDMV車両を併用して走らせることができるのかどうかというところから新たに検討をする必要があるのではないかと考える。

（平成筑豊鉄道（株） 河合代表取締役社長）

- ・弊社の事情に即した点について述べたいと思う。
- ・ご説明いただいた阿佐東線と弊社の規模感の比較だが、鉄道部分の路線延長で約5倍、平成筑豊鉄道の方が長く、1日あたりの乗客数も弊社のほう

- が約30倍多く、かなり規模感が異なっている。
- ・また、既存のDMV車両はマイクロバスを改造した乗客22名乗りであり、平筑の標準的な車両の120人乗りに対して1/6の輸送力であることをご承知いただきたい。
 - ・阿佐東線の導入条件がそのまま適用できるかどうか否かは、車両について22名乗りということで、比較的利用の少ない区間を現在保有の在来型車両1台をDMV1台に置き換えることは弊社の輸送需要では困難。
 - ・このため、DMV2両以上の連結運転、もしくは運転本数の増加、在来型車両も一緒に使うことが必要となる。
 - ・配布資料に記載の前提条件に沿ってお話すると、1つ目「DMV専用線区」については、DMV車両のみで需要を満たそうとすれば、現在に比べると相当多数の両数が必要となり、車両の新規購入や乗務員の確保を考えると、現在保有している在来型車両も併せて運行する必要があると考えられ、条件を満たさないと思われる。
 - ・2つ目「線路上で行き違いをせず」だが、これも現在の輸送力を確保するため、行き違いをしないダイヤを組むことは困難。
 - ・3つ目「単車運行」、つまり連結して2両編成以上にしない点だが、22名乗りの場合には、単車運行では朝ラッシュ時に輸送需要を満たすことは困難。
 - ・この3点だけを見ても、弊社路線についてDMVを導入するには、平成筑豊鉄道に合わせた技術開発が必要となり、技術的な課題が解決されとしても、弊社の現在の経営状況では新たな技術開発に取り組むことは、金銭面始め大きな負担になると予想している。

【質疑応答】

(田川市 大森都市計画課長)

- ・DMV車両自体が、観光資源であり、それにより地域の活性化に寄与できるというようなお話があった。
- ・平成筑豊鉄道を鉄道として存続するのであれば、そういった新たな工夫がないと存続は厳しいのではないかと思います、前回提案をさせていただいた。
- ・内容を確認させていただくと、DMV車両は、マイクロバスがベースになっている軽い車両ということで、今の鉄道の信号システムが正常に動かないということか。

(九州運輸局鉄道部 井料計画課長)

- ・本来はレールを走ると、信号設備がそれを認識するが、車両が軽いと

認識しない。

(田川市 大森都市計画課長)

- ・車両が軽く信号機のシステムが正常に動かないため、徳島県の事例では、新たな信号機システムを開発したということか。
- ・また、平成筑豊鉄道の線路にDMVを走らせることは法的には問題はないが、現在の平成筑豊鉄道の車両と軽いDMVの車両を混在して両方走らせるとなると、今の徳島県の信号機システムが使えないということか。

(九州運輸局鉄道部 井料計画課長)

- ・そのとおり。

(田川市 大森都市計画課長)

- ・平成筑豊鉄道にDMVを入れるならば、今までの重い車両も走れる、新しい軽い車両も走れる、そういう新たな信号機システムを開発しなければならないと思う。
- ・その開発の費用、開発の期間がどのくらいかかるかを知りたいが、そういったデータはなかなか予想が難しいと思うため、徳島県の事例で開発の期間や費用がどのくらいかかったか教えていただきたい。

(九州運輸局鉄道部 井料計画課長)

- ・DMVの技術開発については、元々はJR北海道が開発を始めており、阿佐海岸鉄道はJR北海道が開発したDMVの技術を基に導入されている。
- ・JR北海道がDMVの開発に着手したのが2002年10月、それから13年後、2015年10月に国土交通省のDMV技術評価委員会において、専用線区、単車走行などの前提条件の下、技術的に特に問題なしということで中間取りまとめがされている。
- ・阿佐海岸鉄道はその後、2016年3月に協議会を設置し、DMV導入に向けた本格的な取り組み、開発を開始し、5年後の2021年の11月に国土交通省のDMV技術評価委員会において安全性の最終確認がなされ、同年の12月に本格運行・営業開始されているところ。
- ・DMVの運行区間としては全4駅10km。
- ・阿佐海岸鉄道でDMV導入に関する費用は、各構成自治体が予算を確保し、車両製作や運転保安システムの整備、駅舎の改修などに支出されている。
- ・信号設備等の導入、安全性の証明にかかった費用として、約7億3,000

0万円となっており、総事業費は16億3,200万円。全体の半分弱ほどが信号設備等の導入費用にかかっている。

- ・JR北海道の開発費用については、状況が不明のため説明は控えさせていただく。

(田川市 大森都市計画課長)

- ・JR北海道の基礎開発で13年。その後徳島県で5年。単純に計算すると18年。そこまでかかるかは分からないが、開発にかなりの時間がかかることは理解した。
- ・金額にしても、10kmの鉄道に設置するのが7億3,000万円。
- ・平筑の規模は約5倍だということであるため、単純に、30億円以上のシステム設置費用がかかる。
- ・期間も費用も、数字だけ見ると現実的ではないものだと分かった。

(西日本鉄道(株) 自動車事業本部計画部 井上計画担当課長)

- ・DMVを導入する場合に、関係する法律は「道路運送法」なのか、「鉄道」の方なのかということと、乗務する乗務員に必要な免許が、道路であれば大型二種免許が必要かと思うが、軌道上を走る場合に何か特殊な免許が必要なのか教えていただきたい。

(九州運輸局鉄道部 井料計画課長)

- ・手続きとして、道路運送法のバスの許可、鉄道事業法の許可、両方が必要。
- ・運転手についても、バスの二種免許、鉄道の運転士の動力車操縦者運転免許、どちらも必要になる。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・伺った話を聞いていると、コスト、開発の期間等もかなりかかることから、大変貴重なご提案ではあるが、あり方検討の項目として、DMV導入を加えることについては見送ることにしたいがいかがか。

(反対意見なし)

○事務局から、資料 1 により説明。

【質疑応答】

(行橋市 土肥都市政策課長)

- ・資料 P 4 「通学定期券購入時申込情報集計調査」(以下「定期券調査」という。)だが、調査対象に中学生が入っていない理由は何があるか。

(事務局)

- ・資料 P 4 の「利用実態調査」(以下「利用実態調査」という。)は、県立中学校も対象としているが、必ずしも回答率が 100%ということを確認できないため、「利用実態調査」を補完するために、必要ということであれば、検討したい。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・調査期間が非常にタイトということもあるため、必要性についても考えた上で検討することとしたい。

(北九州市立大学副学長 内田教授)

- ・「利用実態調査」では、例えば北九州の学校や私立など平成筑豊鉄道を利用している県内外すべての生徒を集計するということか。

(事務局)

- ・そのとおり。

(北九州市立大学副学長 内田教授)

- ・「利用実態調査」アンケート問 16 の希望するサービス・設備は、前回自由回答だったところを、項目に変更してもらったが、「トイレの設置、フリーWi-Fi の設置、スマホの充電スペースの設置、自動販売機の設置」のこれらは、駅なのか、車両なのかという区別があったほうがよいと思う。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・事務局の方で、検討していただきたい。

(九州産業大学理工学部情報科学科 稲永教授)

- ・先ほど、「定期券調査」に中学校を含めるか否かの話があったが、含めるとするなら、「利用実態調査」のアンケートの中に、定期券を購入して乗

っているのか、または、たまにしか乗っていないのかというのが区別できればよいと思う。

- ・ 10 問目、13 問目で「デマンド交通」という言葉が出ているが、16 問目のところが「オンデマンドバス」と、微妙に表現が違うため、表現を揃えていただきたい。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・ 定期券の購入状況も質問に加えた方がいいということについて、検討することとしたい。
- ・ 「デマンド交通」と「オンデマンドバス」については、「デマンド交通」が広い概念になるため、「デマンド交通」に統一する。

(九州運輸局福岡運輸支局 辻首席運輸企画専門官)

- ・ 資料 P6 「路線バス転換案調査」について、収支見込も調査するという
ことで、国の方で「地域間幹線系統補助」という補助制度があるため、該当するかしないかは精査しないといけないが、そういったところも含めて、調査していただきたい。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・ 国の補助金も活用したところを含めた調査になると思う。

(JR九州バス(株) 常務取締役 吉住企画運輸部長)

- ・ アンケート調査をする際に、Web で実施するというだけでは、多くの高校生に回答してもらうことは難しい。
- ・ この協議会で協議しているということをどこまで伝えるのかは別として、このままの状況では大変厳しい経営になり、真剣に答えないと本当にどうなるかわからないということを高校生や高校に伝えたくて調査をやるのか、それとも淡々と利用実態を把握するというスタンスでやるのか、意見を伺いたい。
- ・ 私個人としては、前者の方で、はっきり伝えた方が回答数は上がると思っている。

(事務局)

- ・ 現在、教育庁高校教育課と事務局で協議しながら学生に配布するチラシを作っているところ。
- ・ 検討段階ではあるが、平成筑豊鉄道では今後年間 10 億円の赤字が発生す

る見込みで、大変厳しい経営状況が続いているという文言や、県の方で、この地域の交通ネットワークがどうあるべきかといったところを関係者と検討しているということであったり、平成筑豊鉄道の普段の利用状況や、平成筑豊鉄道に対する率直なご意見・ご希望を答えていただき議論の参考にさせていただきたいなどのメッセージを入れる予定としている。

(直方市 和泉都市計画課長)

- ・資料P3「調査カード」について、以前の別の会で「利用目的」の「帰宅」という表現では、通勤、通学、習い事で家に帰る人が「帰宅」という選択肢を選んでしまうことになるのではないかという議論があった。
- ・表現の変更について、検討しないのか。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・この資料は過去の調査カードイメージとして載せているものであり、この内容のカードが使われるという事ではない。

(福智町 木村企画振興課長)

- ・「利用目的」の「帰宅」という選択肢が、通勤でも通学でも帰る際に鉄道を使うと、この選択肢に結びついてしまうため、アンケートを集約した時の結果にばらつきが出て、正しい結果が出ないのではないかとと思われるため、ここの書きぶりについては検討願いたい。
- ・例えば遠くから帰ってくるために使った場合は、「帰省」という書きぶりにして、帰宅ではないものに変えるということをご検討いただきたい。

(事務局)

- ・以前の調査を踏まえ、改善すべきことだと考えているため、実施する前にご相談させていただきたい。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・本日いただいたご意見に伴う修正は、基本的に座長に一任いただきたい。
- ・ただし、調査カードの件については、後日、相談させていただく。
- ・本協議会として、調査を行うことに賛成の委員は挙手をお願いしたい。

(賛成多数により、本協議会における調査事項について、承認された)

3 議事（２）その他について

・特になし

4 閉 会